

視 察 報 告 書

<p>調査・研究 テーマ</p>	<p>ジェンダー（社会的性差）の日本社会における変化について</p>
<p>目 的</p>	<p>古代から現代に至るなかで、ジェンダーがどのように変化したかを辿り、特に政治の場、仕事や暮らしの場での変遷と、性の売買の歴史の実像を見るなかで、現代のジェンダーの状況との繋がりを学び、男女にとどまらない、ジェンダー平等に向けた課題を把握し、政策提案に生かす。</p>
<p>内 容</p>	<p>日 時：2020年11月4日（水） 10：30～13：00 場 所：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 （所在地：千葉県佐倉市城内町117） 参加者：添野ふみ子、高柳 俊哉、土井 裕之、三神 尊志、 富田かおり、出雲 圭子、松本 翔 報告書作成者：添野ふみ子</p> 
<p>概 要</p>	<p>国立歴史民俗博物館（以下、歴博）では10月6日（火）から12月6日（日）の2か月間にわたり、日本（列島）社会の歴史＝先史・古代→中世→近世→近代→現代＝をジェンダー（社会的・文化的性差）の視点で見直す展示『性差（ジェンダー）の日本史』が開催されている。</p> <p>社会のなかで男女という区分がなぜ意味をもつのか、その区分が不平等を生むのはなぜかという問いへの答えは、歴史をさかのぼっての検証・確認の作業が必要である。</p>

日本列島社会のなかで、男女という区分がどのようにうみだされてきたのか、区分の目的や区分によって生まれる意識がどのように変化するのか、それぞれの時代のジェンダー構造と、そのなかでの人びとがどのように生きてきたのかを展示しているのが、今回の「性差の日本史」展である。



概要

展示は3つのテーマによって構成されている。

テーマの1は、「政治空間における男女」

男と女に二分しその役割を定めるのは古代律令国家の形成とともに形づくられてきたが一拳にかわったわけではない。「家」が政治空間となった中世・近世、政治の場から女性を完全に排除する近代国家から戦後の改革までの変化を追う。

テーマの2は、「仕事とくらしのなかのジェンダー」

男女の労働の実態や、男女の職業区分がどのようにうまれてきたのかを展示。

テーマの3は、「性の売買と社会」

歴史展示としてはこれまでに例のない展示である。

中世から戦後までの性の売買の実像を明らかにしている。

展示では、古代、中世、近世、近代、現代それぞれの社会でジェンダーがどのような意味をもち、変化をとげてきたのかをさまざまな資料を通じて明らかにしている。

埴輪などの出土物や、図画、屏風図、地蔵菩薩立像、書画、書状、ポスターや模型など、重要文化財やユネスコ「世界の記憶」を含む280点以上の資料が、ポイントを絞った簡潔な説明文とともに配置され、一目でわかるよう工夫が凝らされている。

視察当日は平日であったが、多くの来館者でにぎわっていた。展示資料も豊富であり、また、各地の博物館の刊行物や、歴史関連の多くの書籍なども充実して販売されていた。

<p>成 果 ・ 所 見</p>	<p>本展示は、日本に博物館ができてから初めての「ジェンダー」をテーマとした歴史資料展示であり、ジェンダーの成り立ちとその変化を明らかにする初めての展示である。それは新聞等でも、展示の意義について取り上げられている。</p> <p>展示に伴って出版された『性差の日本史2020』は、厚さ2cm以上の説明・資料集である。性差の歴史を通して、日本の歴史もまた学び、現代を見直す契機も作っている。歴博の取り組みに敬意を表したい。</p> <p>歴博では以前より、以下のような取り組みを行ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008年国際研究集会「歴史展示のなかのジェンダー」・ワークショップ「戦争展示のなかのジェンダー」 ・2016～2019年度基礎共同研究「日本列島社会の歴史とジェンダー」 ・2017年国際研究集会「歴史展示におけるジェンダーを問う」 ・2018年国際研究集会「東アジアにおける文字文化とジェンダー」および「買売春と社会」 <p>これらの積み重ねの上に、今回の企画展示に至ったことがわかり、一つひとつ、調査や資料収集、研究、課題の共有化などの重要性を改めて実感した。ジェンダーが、社会の歴史のなかで生まれ、構造化され、人々の意識や文化のなかに組み込まれてきていることがよくわかった。</p> <p>依然として、ジェンダーは平等でなく、女性差別は経済や政治、社会のなかで存在する。また性的少数者の不平等・差別も根深くある。そして、性の売買についても、女性や性的少数者を抑圧している現実があり、社会的な大きな問題となっている。これらの問題をジェンダーの視点から検証し、誰もが平等に暮らせるための社会のあり方、政治のあり方を追求していくことが必要である。</p> <p>ジェンダー平等が進んでいけば、非正規やひとり親の女性が直面している問題は、改善に向かうだろうし、何より、すべての人たちが安心して暮らせる社会の礎をつくることにつながる。これからの時代をつくる原動力にもなってくるだろう。ジェンダー平等は、女性や性的少数者のみの特殊な政治的社会的課題ではなく、すべての市民、国民に共通する課題である。</p>
--------------------------	--

<p>成 果 ・ 所 見</p>	<p>本展はそれらが、展示によって視覚化され、訪れた人たちに多くの示唆を与えている。自治体の政策・施策・制度をジェンダーの視点からチェックし、とらえなおし、課題解決への提案や問題の是正などに取り組む必要がある。</p> <p>本市における男女共同参画、ジェンダー平等を進めて行くために、本展で得た知見を活かし、文化行政では本市の博物館等の文化施設でのジェンダーについての扱いを検証するとともに、ジェンダー平等に向けた会派としての政策提案、議会での質問、制度の改善に反映していきたい。</p> 
<p>備 考</p>	<p>当日、国立歴史民俗博物館の横山百合子教授から直接に説明等を受けることは残念ながらできなかったが、後日、参加議員との間でメールによる意見交換を行っている。</p>